

# 指定討論

## 大村 哲夫（上智大学）



# 私の立場

- ・臨床心理学・文化人類学・比較宗教学
- ・グリーフケア
- ・宗教を通して人間を知りたい 人はなぜ宗教を必要・無用とするのか？
- ・グアテマラ・マヤ民族の宗教と文化 シンクレティズム
- ・臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師・臨床宗教師
- ・キリスト教（カトリック・聖公会・プロテstant）・禪への関わり
- ・教会のハラスメント対策 なぜハラスメントは起きるのか？



# 話題提供を聴いて

- 1. 信仰は「個人のもの」であると同時に「共同体のもの」でもある。信仰は宗教を形成し共同体を維持するための社会システムの1つ
- 2. 研究者が宗教をテーマに選ぶ時点で、既にバイアスはかかっている。好悪・死生観などからフリーではあり得ない
- 3. そこを「自覚」し、立場や関わりをあえて開示することで、研究の可能性と限界を明らかにすることができる。cf. 利益相反
- 宗教指導者と信者では、教義の位置付けが異なることが多い
- e.g., 「民間信仰」人々が実際にどう信じているか？

# 宗教指導者の諸相

- 1. 「発心」「回心」による宗教者
  - 個人的背景
  - 家族的・社会的背景 e.g., クリストゥスチャン家庭
  - 自分の救済への関心高い
- 2. 「家業」としての宗教者 日本の仏教者に多い
  - 肯定的
  - 否定的
  - 他者を救済する専門家？
    - e.g., 「宗教二世」
  - 一律に宗教指導者として語れない現状がある

# 話題提供者へ

- ・辻本：「家業」としての宗教者と、個人の「発心」による宗教者では心理学者として異なるのか？
- ・河村諒：臨床宗教師の中で、東本願寺の僧侶が臨床宗教師・スピリチュアルケア師になる人が少なくない。これはどう考えるか？臨床宗教師は布教伝道をしない（教義によらない）が、非宗教的スピリチュアルケアの効果はどうか？
- ・河村従彦：神学者が必ずしも幸せに見えず、神学を知らない平信徒の信仰がより幸せに見えることがあるのはなぜか？
- ・西脇：宗教組織への帰属を忌避するが、宗教行事・習俗への参加が多いのは、「慎重かつ宗教性豊か」と言えないのか？